

ほとけの 混和会だより

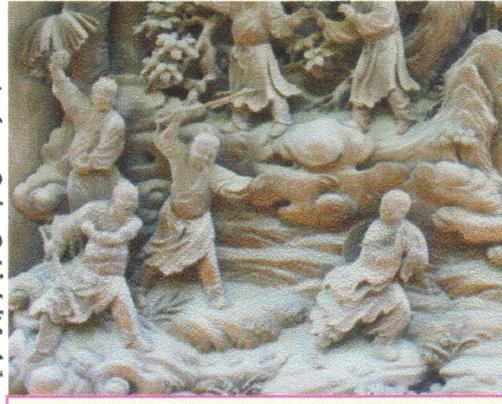
平成二十九年七月

東光院

仏の混和会

第128号

人は、何の為に 生きているのかに



ずの図 難受菩薩 常不輕菩薩 ぼさつじゆなん ぼさつじゆなん じようふぎよう じようふぎよう

NO.6

さて、この右の写真、覚えて居られますでしょうか、この度のテーマに対して常不輕菩薩さんの生き方から回答が得られないかと思ひ、昨年の十二月に登載した写真です。今回、今一度、常不輕菩薩さんの生き方を見つめてみようと思ひ登載致しました。常不輕菩薩さんは、「貴方を敬います。何故ならば、貴方は菩薩の修行を重ねて尊いお悟りを開かれる人だからです」と、修行僧や世俗の人々を敬い礼拝

されたのですが、人々からは「お前のような愚僧に敬つてもいたくない」などと、罵倒され棒で打たれ石を投げられながら「法難」と言う迫害を受けたのであります。そこで、なぜ修行僧や人々は怒り迫害を加えたのか探つてみたいと思ひます。

私達は、己の未熟さや過ちをだれかに指摘されると、己を守る為に無意識のうちに、相手に対して非難中傷の言葉を吐き、相手を攻撃して己を守ろうとします。

それと同じように常不輕菩薩の敬いの合掌を人々は未熟な人間であることを指摘されたと思ひ込み常不輕菩薩に迫害を加えた訳であります。

仏教の言葉に、自分は悟っていると思ひ上がり、自分は抱く人を増上慢(そうじょうまん)と言つておりますが、この人々は悟り誇る増上慢の心で常不輕菩薩を軽蔑して迫害を加えてしまったのであります。しかし常不輕菩薩は人々より迫害を受けることを承知で人々の心の奥に潜んだ仏性を敬い礼拝されたのでした。

受難と滅罪



お坊さん
なぜ常不輕菩薩

さんは人々から迫害を受けながらも、なお合掌礼拝を続けて行かれたのですか？
そしてあえて人々に怒り、買おうような行為をして、誹法の罪を犯させたのですか？

そうじゃな！
実はね常不輕菩薩は過去に於いて
仏教の教えを誹謗中傷した罪、その報いとして「受難」と言う迫害を受けることに成ってしまったのじゃよ。



しかしその迫害を忍ぶ「忍受」によつてその罪を滅し、生まれ変わつてブツダと成られたと言う事なんじゃよ。
つまり人々より迫害を受けた時、敵対する人々を非難中傷するのでは無く、その原因は己にあると解釈して「悪縁」に対して敬いの念を持つて「善因」に変えられる用に「滅罪」に勤めたと言う事なんじゃよ。

他者への批判は必ず自己への批判として帰ってくるからね。要するに常不輕菩薩の礼拝行は己の犯した罪の「滅罪」。
そして人々が日頃犯している罪や過ちに対して自覚を促すことだったのじゃよ。

私達は、己の罪や過ち、そしておごりと言う慢心した心にはなかなか気づけないのが現実なんじゃ。

そこで常不輕菩薩は、罵倒され迫害を受け怒りを買う事を承知の上で、人々を敬い礼拝し、人々に非難中傷の罪を、犯させ経験させたのじゃよ。

人々は、常不輕菩薩の礼拝行に對して当然の如く「お前のような愚僧に敬い礼拝されたくない」などと、罵倒し石を投げつけ棒で打ちながら様々な罪を犯し過ちの経験を得たのじゃよ。

その経験によつて一旦は悪道の苦しみを得る事となるけれども、己の罪や過ちには気づきやすく、己の過ちに気づけた人は敬いの念を持つて必ずそこから立ち上がつて来れるのじゃよ。

しかし、己の過ちに気づけ無い人は己の慢心した心や罪によつて何時までも地獄の苦しみを受ける事と成つてしまふのじゃ。常不輕菩薩さんは己の滅罪の為、又人々の仏性の自覚の為に礼拝行を買かれたのじゃよ。

私達も己の様々な過ちに気づけるように、そして生きる事の意義が見いだせるように努めて行こうね。
亮観拝

日本の仏様



No. 18

日本仏教に登場する
仏様を毎号少しずつご紹介。今回は
明王部の軍荼利明王を紹介しします。

●明王部 軍荼利明王

メラメラとした炎を纏い、三つ目の
恐ろしい顔。そして八本も腕を持つ軍
荼利明王。

本来の軍荼利明王は宝生如来とい
う仏様で、優しい言葉では聞く耳を
持たない人や禍をもたらす者に対して
怒った時の姿がこの軍荼利明王です。

軍荼利明王は仏教の世界を守る五
大明王の一人として仏教界の南方を
守護しており、様々な外敵から人々
を守り、様々な障害を取り除いてく
ださる仏様です。

この軍荼利明王はサンスクリット語
でクンダリーと言ひ、そのまま軍荼利
と漢字に音写されました。

クンダリーとは、甘露の壺。また
はとぐろを巻く者、蛇という意味が
あります。そのため、よく見ると手
足には蛇が巻き付いています。

この軍荼利明王の手足に巻き付く
蛇は軍荼利明王の持つ生命エネルギー
を表している言われておりますが、仏
教において蛇は煩惱の象徴とも言われ
ております。

では、煩惱の象徴である蛇をなぜ
手足に巻き付かせているかというと、

軍荼利明王はこの蛇に人々の煩惱
を食べさせるためだそうです。

もう一つの意味の甘露とは神々が
持つ不老不死の薬のことを言います。

そのため、軍荼利明王には無病息災
の功德があるとされています。

恐ろしい姿をしています。蛇の
力で煩惱を取り除き、様々な障害を
取り除いてくださる軍荼利明王は天
台宗の本山、比叡山にあります国宝
殿と言うところでもお祀りされてお
ります。是非、実物を見に行かれ
ては如何でしょうか。

特に今年には回峰行の祖である相応
和尚一〇〇年御遠忌記念として、
比叡山西塔にあるお釈迦様を祀る釈
迦堂の内陣を本邦初公開（八月一日
〜十二月十日まで）されます。

さらに、十月一日〜十二月十日の
間、秘仏とされてきた釈迦如来像も
三十三年ぶりに一般公開されます。

夏休みの予定がまだの方、この秋
京都へ紅葉を見に行かれる方がいらっ
しゃいましたら、是非この機会に比
叡山にお参りに行かれてはいかがで
しょうか。私も十月に数日ほど釈迦
堂へお手伝いに行つてますので是非！
…と最後は宣伝でした。 亮澄拝



ジャガイモ掘りが行われました



日差しも強く
降り注ぎ、何も
せずとも汗ばむ
季節となりまし
たが皆様におか
れましてはいか
がお過ごしでし
ようか。

先日 東光院では恒例のジャガイモ
掘りが行われました。真夏の農作業
は決して快適なものではありません
が、青空の下 自然の中で食物の生産
収穫に触れることは普段何気なく食
材を口に運んでいる私たちにとって
はいろいろと考えさせられることも
あり、良い経験
となっておりま
す。また、貴重
な休日にご参加
いただいた皆様
方には改めてお
礼申し上げます。



お盆に向けて

さて、夏が訪れてワクワクした気
持ちになったのは昔の話、最近はこの
れからお盆・施餓鬼の季節を迎える

にあたり、今年はこのよ
うな夏になるのかいろいろ
と考えてしまうようにな
りました。東京では七月の中旬、
地方では主に八月中旬にお盆を迎え
るわけですが、あちこち場所
を変えながら、この一ヶ月ちよつと
は気合いをいれて乗り切ります。お
仕事をされている方は皆同じような
思いをされていることかと思いま
すが、個人的には季節柄、衣を着ての
法務がとてつらく、夏服の衣を見
て涼しげでいいですねとお声をい
ただくこともありますが、襟付きの
生地を何枚も重ねているため、実は
そこまで涼しくはありません。ただ、
棚経でお参りさせていただいていく
際、親切に迎えてくださる方や、一
年ぶりにお会いす
る方など、人との
出合いの濃い季節
でもありますので、
そういった意味で
はとても楽しみな
季節でもあります。



お盆は、旅立たれた大切な方を身
近に感じることが出来る時期でござ
います。一年に一度の風習ですから、
仏壇の掃除やお供え物を用意して、
ご家族親戚、皆様で故人の菩提を祈
って手を合わせていただけ
れば幸いです。 亮敬拝

